



震災から1年

これまでとこれから

能登半島地震発災から1年がたちました。コープいしかわは「負けとられん! 能登を笑顔に」を掲げ、事業、活動の面でこれまで被災地に寄り添い続けてきました。組合員、地域担当者、他県の生協からの支援者、それぞれが続けてきた取り組みとその思いを伝えます。



徳木 守さん

コープいしかわ のと北部センター 珠洲市地域担当者。自宅で被災し、今も仮設住宅から出勤する。

元気よく、一緒に笑って

2月初旬、発災後初めて配送トラックで珠洲方面へ向かう時には、組合員さんに会ったらいつも以上に明るくあいさつをしよう! と心掛けました。「元気よく声を掛けられるとうれしい気持ちになるよ」と言ってくださった組合員さん。私もその笑顔を見て元気をもらいました。配送の時も私からは「大変でしたね」と言わないようにしています。ご無事で良かった、会えた、という気持ちで「ああ、良かったです」と、それだけを伝えています。逆の立場でいえば、悲しいことに触れてほしくないというのもあると思うので。地震から1年たっても、皆さん本当の意味でどうしていいかはまだ決まっていないと思います。だから商品をお届けする時には「徳木さん、ばっかじゃないの(笑)」って思われるくらい、明るい話を一緒に笑って、その場を去るように意識しています。これからも組合員さんとの会話を大切に、暮らしに寄り添い続けていきたいです。



仮設住宅に入ってから生協さんがおいしいものを届けてくれるので心底うれいします。避難所にいる時は甘い物やプリン、ヨーグルトなどなくて、今注文できる喜びをかみめています。(輪島市 M.Mさん)



前田 昌宏さん

日本生活協同組合連合会 地域コミュニティグループ マネージャー。能登町、穴水町、輪島市での災害ボランティアセンター運営支援に入り、全国の生協から来る支援職員にとって頼もしい存在。

全国の生協からボラセン支援に派遣された職員

輪島市災害たすけあいセンターで活動用資材の準備

日本中の生協さんが協力してくださり、ますますネットワークの必要性を感じております。今の時代だからこそ助け合いの精神がとても大事だと思いました。(白山市 M.Mさん)



徳田 和将さん

コープみらいで東京都内の配送を担当。コープいしかわの支援のため1年間出向。2024年4月からのと北部センターへ配属。能登町、穴水町の地域を担当している。

支援に来て元気をもらいました

昨年の冬休みに石川県に旅行の計画を立てていた矢先、地震がありました。自分にも何かできることがないかと思っていたら、長期支援の募集があり、いても立ってもいられず石川県のためになるならと応募しました。テレビで被災状況の映像は見ていましたが、被災した現地に行くとか被害の大きさに衝撃を受けました。最初は組合員さんにどう声をかけたらいいか悩みましたが、大変な状況の中でも皆さんとても元気で私の方が元気をもらったほどです。「こんなところまで来てくれるとは思わなかった」と感謝してもらい、能登に来て組合員さんと接することができて良かったと思っています。



コープみらい、コープデリ連合会から1年間出向し、のと北部センターで配送する森川さん、佐々木さん、徳田さん



みんなでみんなを支え合って助け合う。そんな生協の組合員であることに安心感を覚えました。他県から支援に来てくださっている皆さん本当にありがとうございます。(加賀市 H.Kさん)



北島 邦子さん

コープいしかわボランティアバスにこれまで半分以上参加している組合員。東日本大震災のボランティアバスでも参加。

1人の力持ちより

ニュースや新聞記事よりも自分の目で現地を直接見て、少しでも何かしたいと思いました。コープのボラバスでは「できる範囲でいいよ」と言ってくださり、作業は分担し、安心して活動できます。1人の力持ちが行くより10人の手があった方が絶対いい。現地では被災された方がぼろっと本音を話されることに共感できればいいなと思っています。



庭に堆積した泥を取り除くため次々に出来上がる土のうの口を縛る北島さん



上田 静子さん

コープいしかわ組合員。東日本大震災のボランティアバスにも参加しており、能登半島地震発災後にはコープいしかわのバス運行を心待ちにしていた。

行かない選択はなかった

岩手や福島へボランティアに行っていたので、同じ石川県で起こった災害に、行かないという選択はなかったです。高齢なので迷惑をかけるかなと思いましたが、「できることがあれば何でもさせて」という気持ちで参加しました。庭の泥出し作業の中でもガラスの破片を片付けるなど、自分だったらこれが庭に残ってたら嫌だろうな、と思うことを考えて行動するようにしました。百聞は一見にしかず。皆さんも一度参加してみませんか。

ボランティアの登録は14ページ



バケツに土のう袋をセットするなどサポートにまわる上田さん

一人ひとりのお困りごとに寄り添って

コープいしかわでは5月から月に1度、能登で「能登復興推進プロジェクト」を開催し、被災した組合員さんや能登の地域にどのようなお手伝いができるかを話し合っています。プロジェクトではそれぞれの部署の職員が、配送時の会話や組合員さんの声を地域担当者が書きとめた日報「振り返りシート」や、組合員さんから寄せられた声を読み込み、そこにある思いや暮らしをもとに支援や活動につなげています。これまで全国の生協からも多くの支援をいただいております、生協に関わる団体とも手を取り合い同じ思いを持って被災地に向き合ってきました。今後も能登の現状を知らせることを大切に、一人ひとりのお困りごとに応じた支援を継続し、日常の暮らしと笑顔を取り戻すその日まで、寄り添い続けていきたいと思っています。



荒井 昌亨さん

能登復興推進室 マネージャー。発災以降のと北部センターに常駐している。

まだまだ「道半ば」、そこまでもいっていない中、いろんなところが支援を撤退していくニュースを見て悲しい気持ちに。そんな中、生協は「継続中」。元気が出ます。(志賀町 Y.Yさん)

オーケストラ・アンサンブル金沢の協力で開催した能登復興応援ピースコンサート

調味料のセットを入居前の仮設住宅にお届け

